

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	e		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	必修	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

研究テーマは「観光による地方創生」で観光による地域経済の活性化を図るための仕組みについて研究する。地域社会との関りから地域住民にとっても有益である「持続可能な観光」のあり方を研究する。特に訪日観光客（インバウンド）を地方へ誘客するためのマーケティングやプロモーションについての理解を深め、地域の観光消費額を上げることを主眼とする。フィールドワークを通じて調査方法を学び、発表を通じてプレゼンテーション力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

観光による地域活性化についての事例研究を行う。近畿圏内の観光資源調査（フィールドワーク）を実施準備を行い、観光地における課題と解決策を調査する。調査方法や観光地マーケティングやマネジメントを学び、観光による地域創生のあり方について考察する。

授業計画

- 1 ガイダンス
- 2 観光による地方創生①
- 3 観光による地方創生②
- 4 観光による地方創生③
- 5 観光による地方創生④
- 6 観光地と地方創生⑤
- 7 観光地のブランド化①
- 8 観光地のブランド化②
- 9 観光地のブランド化③
- 10 フィールドワーク準備①
- 11 フィールドワーク準備②
- 12 フィールドワーク準備③
- 13 フィールドワーク準備④
- 14 フィールドワーク準備⑤
- 15 まとめ

授業の方法

課題テーマについてリサーチとプレゼンテーション及びディスカッションを主体に行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、課題30%、プレゼンテーション20%

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

適時プリントを配布する。

参考図書

『DMO観光地経営のイノベーション』 高橋一夫著 学芸出版
『観光DMO設計・運営のポイント』 日本政策投資銀行 地域企画部著 ダイヤモンド社
『観光ブランドの教科書』 岩崎邦彦著 日本経済新聞出版

留意事項

演習は自主性、積極性が求められる。
フィールドワークへの参加は必須である。

教員連絡先

sakai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	f		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
白井 昭彦	必修	2				

授業の到達目標

各自の研究テーマについて、交通機関や施設などの「ユニバーサルデザイン」と「心のバリアフリー」の取組について調査し、課題解決について自らの考えを持ち、プレゼンテーション力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）、I（知性）、S（奉仕）、E（倫理）、In（国際性）を学ぶ。

授業の概要

交通機関、観光スポット、市内施設などの『ユニバーサルデザイン』と『心のバリアフリー』の取り組み・課題解決について、フィールドワークやシンポジウムなどを通して学び、プレゼンテーションとディスカッションを中心に進める。

授業計画

- 1 ガイダンス
- 2 移動困難者の特性
- 3 擬似体験Ⅰ
- 4 擬似体験Ⅱ
- 5 鉄道のユニバーサルデザインⅠ
- 6 鉄道のユニバーサルデザインⅡ
- 7 バス・タクシーのユニバーサルデザインⅠ
- 8 バス・タクシーのユニバーサルデザインⅡ
- 9 船舶のユニバーサルデザインⅠ
- 10 船舶のユニバーサルデザインⅡ
- 11 航空のユニバーサルデザインⅠ
- 12 航空のユニバーサルデザインⅡ
- 13 市内施設のユニバーサルデザインⅠ
- 14 市内施設のユニバーサルデザインⅡ
- 15 まとめ

授業の方法

課題について、調査とプレゼンテーション及びディスカッションを主体に行う。

準備学修

日頃から政府・地方自治体などの取組に興味を持つ

課題・評価方法、その他

プレゼン、ディスカッション、積極的な参加、自主的なゼミ運営に対する貢献度等により総合的に評価

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

Classroomで資料を配布する。

参考図書

適宜紹介する

留意事項

各自が興味あるテーマにより、フィールドワークやシンポジウム視聴などを行うので、講義時間帯以外の活動がある。

教員連絡先

shirai@kaisei.ac.jp

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	d		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
小野 礼子	必修	2				

授業の到達目標

ことばに対する理解を深め、様々な言語や言語変種、そして、それを使う人々に対する正しい態度を養う。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）、I（知性）、及びIn（国際性）を養う。

授業の概要

言語変異と言語変化、言語使用域と文体、ピジンとクレオール、世界各地の英語について学ぶ。毎回その日のテーマについて各々がまとめてきたことを発表した後、全員でディスカッションを行う。また、演習Ⅱの最後に、各々の研究について発表を行う。

授業計画

- 1 Introduction
- 2 レポートの書き方の復習
- 3 実時間と見なし時間
- 4 顕在的および潜在的威信、身分と連帯意識
- 5 言語使用域(レジスター)、話題による偏り—職業語
- 6 第3回～第5回の振り返り
- 7 話者と聴者の役割関係、形式的文体とくだけた文体
- 8 話しことばと書きことば
- 9 ピジンの成り立ち、ピジン化の特徴
- 10 クレオールへの移行、国語となったトクピシン
- 11 第7回～第10回の振り返り
- 12 3つの英語圏—カチリューの分類、母語話者英語の多様性I
- 13 母語話者英語の多様性II、第2言語・公用語としての英語
- 14 第12回及び第13回の振り返り
- 15 個人研究発表

授業の方法

発表とディスカッションを中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

発表後は、担当教員によるフィードバックを行う。
平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席点（100点満点）は全体の15%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

田中春美・田中幸子（編著）『よくわかる社会言語学』（ミネルヴァ書房）

参考図書

東照二『社会言語学入門（改訂版）—生きた言葉のおもしろさに迫る』（研究社）

留意事項

- ・平常点には、発表、出席状況、日頃の学習態度等の評価が含まれる。
- ・定期試験は、個人研究レポートの提出とする。
- ・毎授業に出席するだけでなく、積極的に発言することで授業に参加・貢献してほしい。

教員連絡先

onoreiko@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	e		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	必修	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

研究テーマは「観光による地方創生」で観光による地域経済の活性化を図るための仕組みについて研究する。地域社会との関りから地域住民にとっても有益である「持続可能な観光」のあり方を研究する。特に訪日観光客（インバウンド）を地方へ誘客するためのマーケティングやプロモーションについての理解を深め、地域の観光消費額を上げることを主眼とする。フィールドワークを通じて調査方法を学び、発表準備を通じてプレゼンテーション力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

観光による地域活性化についての事例研究を行う。近畿圏内の観光資源調査（フィールドワーク）を実施し、観光地における課題と解決策を調査する。調査方法や観光地マーケティング&マネジメントを学び、観光による地域創生のあり方について考察する。

授業計画

- 1 ガイダンス
- 2 フィールドワーク調査確認
- 3 フィールドワーク①
- 4 フィールドワーク②
- 5 フィールドワークの調査結果のまとめ①
- 6 フィールドワークの調査結果まとめ②
- 7 フィールドワーク調査結果まとめ③
- 8 フィールドワークの報告書作成①
- 9 フィールドワークの報告書作成②
- 10 フィールドワーク報告会
- 11 フィールドワークのまとめ
- 12 個人課題の研究発表と討論
- 13 個人課題の研究発表と討論
- 14 個人課題の研究発表と討論
- 15 まとめ

授業の方法

フィールドワークの調査及び報告書の作成とプレゼンテーションを行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、課題30%、プレゼンテーション20%

欠席について

大学規定通り。

テキスト

随時プリントを配布する。

参考図書

『DMO観光地経営のイノベーション』 高橋一夫著 学芸出版
『観光DMO設計・運営のポイント』 日本政策投資銀行 地域企画部著 ダイヤモンド社
『観光ブランドの教科書』 岩崎邦彦著 日本経済新聞出版

留意事項

演習には自主性及び積極性が求められる。
フィールドワークの参加は必須である。

教員連絡先

sakai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	e		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	必修	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

観光ビジネスによる地域創生及び観光地マネージメントを通じて観光の持つ力について理解を深め、個人研究のテーマについて研究を深めていく。個人研究のテーマは観光領域全般とし各個人のテーマを設定する。研究テーマのキーワードはインバウンド、MICE、旅行ビジネス、航空ビジネス、IR、地方創生、環境ツーリズム。各個人の研究テーマを深め、卒業研究作成を到達目標とする。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

観光ビジネスが地域創生にどのように活用され、また将来、観光ビジネスが期待されることについて考察を深める。各個人の研究テーマについて、個人の研究発表とディスカッションを中心に講義を進める。ゼミ生による積極的な討論により、各自の研究テーマの内容を深めていく。

授業計画

- 1 ガイダンスと個人研究の進め方
- 2 個人研究テーマの発表
- 3 個人研究発表とディスカッション
- 4 個人研究発表とディスカッション
- 5 個人研究発表とディスカッション
- 6 個人研究発表とディスカッション
- 7 個人研究発表とディスカッション
- 8 個人研究発表とディスカッション
- 9 個人研究発表とディスカッション
- 10 個人研究発表とディスカッション
- 11 個人研究発表とディスカッション
- 12 個人研究発表とディスカッション
- 13 個人研究発表とディスカッション
- 14 個人研究発表とディスカッション
- 15 まとめ

授業の方法

各自の研究テーマについて発表とディスカッションを行い、研究内容の課題について確認し考察を深める。

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法、その他

授業出席、レポート、発表、ディスカッションなどの取り組み状況を総合的に判断し成績評価する。

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

必要に応じて配布する。

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

発表者は欠席してはならない。各自個人研究テーマについて積極的に取り組むこと。またディスカッションにも積極的に参加すること。

教員連絡先

sakai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	f		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
白井 昭彦	必修	2				

授業の到達目標

個人の研究テーマにつき「ユニバーサルデザイン」と「心のバリアフリー」の交通機関や施設などの取組について調査し、課題解決について自らの考えを持ち、プレゼンテーション力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）、I（知性）、S（奉仕）、E（倫理）、In（国際性）を学ぶ。

授業の概要

交通機関、観光スポット、市内施設などの『ユニバーサルデザイン』と『心のバリアフリー』の取り組み・課題解決について、フィールドワークやシンポジウムなどを通して学び、各自の研究テーマに関してプレゼンテーションとディスカッションを中心に進める。

授業計画

- 1 個人研究の発表とディスカッション
- 2 個人研究の発表とディスカッション
- 3 個人研究の発表とディスカッション
- 4 個人研究の発表とディスカッション
- 5 個人研究の発表とディスカッション
- 6 個人研究の発表とディスカッション
- 7 個人研究の発表とディスカッション
- 8 個人研究の発表とディスカッション
- 9 個人研究の発表とディスカッション
- 10 個人研究の発表とディスカッション
- 11 個人研究の発表とディスカッション
- 12 個人研究の発表とディスカッション
- 13 個人研究の発表とディスカッション
- 14 個人研究の発表とディスカッション
- 15 個人研究の発表とディスカッション

授業の方法

発表とディスカッション形式で行う

準備学修

日頃からユニバーサルデザインについて興味を持って行動する

課題・評価方法、その他

プレゼン、ディスカッション、積極的な参加、ゼミ運営に対する貢献度等により総合的に評価する。

欠席について

大学規定の通り

テキスト

Classroomにて適宜資料を配布する。

教員連絡先

shirai@kaisei.ac.jp

演習科目〈演習科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習IV	d	13113	IV	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
小野 礼子	必修	2			

授業の到達目標

ことばに対する関心を高め、様々な言語や言語変種、そしてそれらを使う人々に対する正しい態度を育てるとともに、学問への探求心を養う。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）、I（知性）、及びIn（国際性）を養う。

授業の概要

各々の卒業研究に関するテーマを扱う。毎回各々のテーマについて発表した後、ディスカッションを行う。

授業計画

- 1 Introduction
- 2 卒業研究の中間発表
- 3 口頭発表(1)
- 4 口頭発表(2)
- 5 口頭発表(3)
- 6 口頭発表(4)
- 7 口頭発表(5)
- 8 口頭発表(6)
- 9 口頭発表(7)
- 10 口頭発表(8)
- 11 卒業研究について
- 12 卒業研究の発表(1)
- 13 卒業研究の発表(2)
- 14 卒業研究の発表(3)
- 15 まとめ

授業の方法

発表とディスカッションを中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

発表後は、担当教員によるフィードバックを行う。
平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席点（100点満点）は全体の15%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

田中春美・田中幸子（編著）『よくわかる社会言語学』（ミネルヴァ書房）

参考図書

東照二『社会言語学入門（改訂版）一生涯の言葉のおもしろさに迫る』（研究社）

留意事項

- ・平常点には、発表、出席状況、日頃の学習態度等の評価が含まれる。
- ・定期試験は、個人研究レポートの提出とする。
- ・毎授業に出席するだけでなく、積極的に発言することで授業に参加・貢献してほしい。

教員連絡先

onoreiko@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習IV	e	13113	IV	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
酒井 新一郎	必修	2	旅行会社勤務		

授業の到達目標

観光ビジネスによる地域創生及び観光地マネージメントを通じて観光の持つ力について理解を深め、個人研究のテーマについて研究を深めていく。個人研究のテーマは観光領域全般とし各個人のテーマを設定する。研究テーマのキーワードはインバウンド、MICE、旅行ビジネス、航空ビジネス、IR、地方創生、環境ツーリズム。各個人の研究テーマを深め、卒業研究作成を到達目標とする。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

観光ビジネスが地域創生にどのように活用され、また将来、観光ビジネスが期待されることについて考察を深める。各個人の研究テーマについて、個人の研究発表とディスカッションを中心に講義を進める。ゼミ生による積極的な討論により、各自の研究テーマの内容を深めていく。

授業計画

- 1 ガイダンスと卒業研究進行状況報告
- 2 個人研究発表とディスカッション
- 3 個人研究発表とディスカッション
- 4 個人研究発表とディスカッション
- 5 個人研究発表とディスカッション
- 6 個人研究発表とディスカッション
- 7 個人研究発表とディスカッション
- 8 個人研究発表とディスカッション
- 9 個人研究発表とディスカッション
- 10 個人研究発表とディスカッション
- 11 個人研究発表とディスカッション
- 12 個人研究発表とディスカッション
- 13 個人研究発表とディスカッション
- 14 個人研究発表とディスカッション
- 15 まとめ

授業の方法

各自の研究テーマについて発表とディスカッションを行い、研究内容の課題について確認し考察を深める。

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法、その他

授業出席、レポート、発表、ディスカッションなどの取り組み状況を総合的に判断し成績評価する。

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

必要に応じて配布する。

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

発表者は欠席してはならない。各自個人研究テーマについて積極的に取り組むこと。またディスカッションにも積極的に参加すること。

教員連絡先

sakai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
環境ツーリズム論			13430	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	選択	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

国連は2017年「開発のための持続可能な観光の国際年」と定めた。「持続可能な観光」について学び、グローバル社会における観光と環境に関わる課題について考える。また世界的な認証である「サステイナブルツーリズム国際認証」について学び、自然環境と観光を融合した「エコツーリズム」、「グリーンツーリズム」などについての理解を深めることを目的とする。このクラスはKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際）を養う。

授業の概要

国連の「持続可能な開発目標（SDG's）」は2016年から2030年までの世界全体の開発目標（持続可能な開発のための2030アジェンダ）であり、この目標は観光においても例外ではない。2017年国連が「開発のための持続可能な観光の国際年」に指定するなど、現在「サステイナビリティ（持続可能性）」が世界共通のキーワードとなっている。世界の観光旅行人口は約13億人を超え、多くの人が世界各地の観光地を訪れている。その中でいかに自然環境を守りつつ、観光を持続的に発展させていくのかを学ぶ。講義では主に「サステイナブルツーリズム」、「エコツーリズム」、「グリーンツーリズム」について学び、自然環境と共存し持続可能なツーリズムの仕組みについて事例を通して理解を深める。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 SDG'sと「持続可能な開発のための2030アジェンダ」について
- 3 サステイナブルツーリズムと国際認証について
- 4 サステイナブルツーリズムの事例と課題
- 5 エコツーリズムについて（エコツーリズム推進法）
- 6 エコツーリズムの事例と課題①（国内）
- 7 エコツーリズムの事例と課題②（海外）
- 8 グリーンツーリズムについて
- 9 グリーンツーリズムの事例と課題①（国内）
- 10 グリーンツーリズムの事例と課題②（海外）
- 11 国立公園の「ナショナルパーク」としてのブランド化
- 12 ジオパークとジオツーリズム
- 13 観光におけるシェアリングエコノミーについて
- 14 オーバーツーリズムについて

15 まとめ

授業の方法

講義とグループディスカッションを中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題はレポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。評価は平常点30%、課題レポート20%、定期試験50%

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

随時プリントを配布する。

参考図書

『サステナブルツーリズム』 藤稿亜矢子著 晃洋書房
『SDG'sの実践』自治体・地域活性化編 村上周三他著 宣伝会議
『外国人が熱狂するクールな田舎の作り方』 山田拓 新潮新書
『楽しもう！エコツーリズム』 風見信昭著 秀明出版会
『MaaS モビリティ改革の先にある全産業のゲームチェンジ』 日高洋祐編著 日経BP社

留意事項

アクティブラーニングを中心とするので積極的な講義への取り組みを求める。

教員連絡先

sakai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光事業総論			13431	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	選択	2	旅行業			

授業の到達目標

観光は、観光行政（官）と観光産業（民）で構成される。これらを合わせて観光事業である。観光を推進し、地域を活性化させる政策とはどのようなものかを把握する。観光政策の歴史や観光立国への取り組みを理解し、課題を見つけることが目標である。また、産業としての観光事業を各業界別に理解し、未来を展望する。観光関連産業に興味を持つ学生にとって履修が不可欠である。この講義は観光概論を発展させ、より深く探求する。このクラスは、KAISEIパーソナリティのS（奉仕）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

観光概論に続く講義である。観光とは何か。その成り立ちと観光について具体的に解説する。特に観光行政における政策に重点を置き、観光産業との2分野を中心に学修する。具体的には、国家戦略としての観光事業を法整備の観点から理解し、観光を支える宿泊業、旅行業、航空業等の役割と戦略を理解し、グローバル社会での観光の問題を全体のテーマとする。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 観光事業の変遷
- 3 観光事業の現状と課題
- 4 観光政策①（観光立国）
- 5 観光政策②（観光基本法）
- 6 観光政策③（DMO）
- 7 海外の観光政策①（欧米）
- 8 海外の観光政策②（アジア）
- 9 旅行事業
- 10 宿泊事業
- 11 航空事業
- 12 IR事業
- 13 テーマパーク事業
- 14 地域の観光事業
- 15 まとめ

授業の方法

授業はパワーポイントを用いて進められる。また、クラスをグルー

プに分け課題に対し意見交換し、発表を行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題30%、定期試験70%

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

随時プリントを配布する。

参考図書

「入門 観光学」 竹内正人編著 ミネルヴァ書房
「現代の観光事業」 北川 宗忠著 ミネルヴァ書房
「1からの観光事業論」 高橋一夫著 碩学舎

留意事項

観光実務士の認定資格を取得するための必修科目の一つである。

教員連絡先

sakai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光と世界遺産			13432	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	選択	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

ユネスコ世界遺産の理念と登録制度について学ぶ。また観光地として人気の高い国内及び海外の世界遺産を取り上げて、世界遺産の歴史や観光地としての価値について理解することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

世界遺産がもたらす経済効果と遺産保護との課題について考察を行う。1972年のユネスコ総会で採択された世界遺産条約の中で定義された世界遺産について、その条約の理念と登録制度について学ぶ。また、国内及び海外の主な世界遺産に関して、「文化遺産」と「自然遺産」に分けて、その歴史や登録後の保存に関する課題や観光地としての価値と課題についてグループワークを通して理解を深める。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 世界遺産条約と登録制度
- 3 文化的景観について
- 4 日本の文化遺産①
- 5 日本の文化遺産②
- 6 日本の文化遺産③
- 7 海外の文化遺産①
- 8 海外の文化遺産②
- 9 海外の文化遺産③
- 10 自然遺産の分類と特徴
- 11 自然遺産①(国内)
- 12 自然遺産②(海外)
- 13 危機遺産・負の遺産
- 14 トランスバウンダリー・サイトとシリアル・ノミネーションについて
- 15 まとめ

授業の方法

講義とグループディスカッションを中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題はレポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。評価は平常点30%、レポート20%、定期試験50%

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

『くわしく学ぶ世界遺産300』世界遺産検定事務局著 マイナビ出版

参考図書

『世界文化遺産の思想』西村幸夫著 東京大学出版会
『世界遺産ビジネス』木曾功著 小学館新書

留意事項

世界遺産検定2級・3級の取得を推奨する。

教員連絡先

sakai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光ビジネス実務論			13434	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	選択	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

観光ビジネスの最前線を体系的に学び、観光産業の基礎と実務を学ぶ。2019年に3,200万人を超えた訪日外国人観光旅行（インバウンド）ビジネスや2025年に開催される大阪万博などのメガイベントでの観光業の実務について理解することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

観光ビジネスの変遷について解説し、最前線の観光ビジネスについて事例を取り上げて理解を深める。観光分野の主要産業である旅行・宿泊・航空（交通）についての実務を学ぶ。また観光ビジネスで注目分野であるインバウンド・ビジネス（訪日外国人旅行）について、地域との連携や課題について学ぶ。また、オリンピック、マラソンなどスポーツイベントにおけるMICEビジネスについて観光産業が携わる実務について解説し、グループワークを通して理解を深める。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 観光ビジネスの変遷について(マスツーリズムからの脱却)
- 3 旅行業ビジネス①
- 4 旅行業ビジネス②
- 5 旅行業法・約款、景品表示法等
- 6 宿泊業ビジネス
- 7 航空業ビジネス
- 8 交通事業ビジネス
- 9 MICEビジネス①
- 10 MICEビジネス②
- 11 スポーツツーリズム
- 12 インバウンドビジネス①
- 13 インバウンドビジネス②
- 14 地域創生と観光ビジネス
- 15 まとめ

授業の方法

講義とグループディスカッションを中心とする。

準備学修

WEBで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題はレポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。評価は平常点30%、レポート20%、定期試験50%

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

随時プリントを配布する。

参考図書

『世界一訪れたい日本のつくりかた』デービッド・アトキンソン著 東洋経済新報社
『CSV観光ビジネス』藤野公孝編著 学芸出版社
『スポーツマーケティング』原田宗彦編著 大修館書店

留意事項

観光ビジネス実務士の認定資格を取得するための必修科目の一つである。

教員連絡先

sakai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認すること。

基幹科目〈観光〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
企業研究		13440	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
白井 昭彦	選択	2	航空会社		

授業の到達目標

自分の興味のある業界・企業を研究することにより、グローバル社会における企業の動向や社会的取組を理解し、就職活動での業界や職種を選択できるようにする。このクラスはKAISEIパーソナリティの(A)自律と(In)国際性を養う。

授業の概要

業界研究では、世の中の業界の種類や特徴を知り、自分の興味のある業界の知識を深める。
また、企業研究では、自分の興味のある企業の基本情報・事業内容・制度・業界での位置づけ・他社との違いなどの知識を深める。また傾聴力と柔軟性を向上するため、グループディスカッションを行った。発信力とプレゼン能力向上のため、発表も行う。

授業計画

- 1 ガイダンス
- 2 個別業界研究
- 3 個別業界研究のグループディスカッション
- 4 個別業界研究
- 5 個別業界研究のグループディスカッション
- 6 個別業界研究の発表
- 7 個別業界研究の発表
- 8 個別企業研究
- 9 個別企業研究
- 10 個別企業研究のグループディスカッション
- 11 個別企業研究
- 12 個別企業研究
- 13 個別企業研究のグループディスカッション
- 14 企業研究の発表
- 15 企業研究の発表
まとめ

授業の方法

講義とグループディスカッション・発表を中心とする。

準備学修

日頃から企業活動のニュースに興味を持ち、社会に関心を持つこと。

課題・評価方法、その他

評価は平常点20%、業界研究発表40%、企業研究発表40%

欠席について

大学の規定通り

テキスト

下記の2冊の内、業界研究と企業研究と各1冊づつ各自購入すること。
(電子書籍でも、紙の本でもどちらでも良い)

- <業界研究>
- ・日経 業界地図 (日本経済新聞出版)
 - ・会社四季報 業界地図 (東洋経済新報社)
- <企業研究>
- ・会社四季報 (東洋経済新報社)
 - ・日経会社情報 (日本経済新聞出版)

教員連絡先

shirai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
海外ツーリズム研修		13445	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
酒井 新一郎	選択	2	旅行会社勤務		

授業の到達目標

海外ツーリズム研修では以下の4点を現地体験することを目標とする。

1. 訪問地での観光資源(特に世界遺産)と宿泊施設の視察、環境保全型のツーリズムを体験する。
2. 旅行会社の海外支店業務を現地支店訪問で把握し、現地ツーリズムの概要を学ぶ。
3. グループワーク課題を実践する。
4. 実際の海外旅行行程で添乗員業務、グループの行程管理などの実務を体験する。(総合旅程管理主任者資格の取得)

このクラスではKAISEI パーソナリティのA(自律)、S(奉仕)、In(国際性)を養う

授業の概要

春休みの1週間を利用して海外の観光地を訪問し、現地のツーリズムについて実体験する。またそれぞれの現地文化を学び異文化理解を促進することを目的とする。現地では旅行会社の協力を得ながらホテル視察、観光資源の体験、現地企業の実情視察などを行う。また研修参加者はグループワークを実践し役割分担によって空港視察、添乗員業務、行程管理、現地観光資源などを現地体験する。また旅程管理研修(3日間)を受講する必要がある、終了テストに合格する必要がある。

授業計画

- 1 オリエンテーション・事前準備の確認
- 2 事前研修・訪問地の世界遺産などの地域観光資源研究
- 3 旅程管理研修①
- 4 旅程管理研修②
- 5 旅程管理研修③
- 6 実地研修1日目:関空出発-目的地
- 7 実地研修2日目:ホテル研修・現地旅行会社訪問
- 8 実地研修3日目:研修地でのエコツーリズム・世界遺産訪問・異文化体験
- 9 実地研修4日目:研修地の移動
- 10 実地研修5日目:ホテル研修・現地旅行会社訪問
- 11 実地研修6日目:日系企業訪問
- 12 実地研修7日目:帰路の空港見学・帰国
- 13 現地でのグループワークの事後発表の準備
- 14 現地でのグループワークの事後発表
- 15 全体の研修での課題点の洗い出し・まとめ

授業の方法

研修前に訪問地の歴史・自然・文化・観光資源などを事前研究する。また旅程管理研修の講義を受け、試験に合格する必要がある、研修中は行程管理・空港見学・機内サービスの現地体験を含めグループワーク課題を実践する。

準備学修

事前研修で訪問地の歴史・自然・文化・観光資源を地域研究として政府・州観光局の情報と観光資料、インターネットを利用し調査し準備する。

課題・評価方法、その他

事前研修、海外研修の総合評価。

欠席について

事前研修は参加登録者全員が受講すること。参加登録者は研修旅行当日の病気などによる正当な事由がない限り欠席はできない。

テキスト

総合旅程管理主任者テキスト(受講者に事前説明有り)

参考図書

事前研修時に適宜指示する。

留意事項

受講生に対して、事前説明会を実施する。資格講座(ツアーコンダクター)と海外実習を受講する必要がある。本講座は費用が発生するので途中での辞退はできない。尚、研修旅費の高騰、安全面など諸般の事情で研修先が変更又は中止になる事がある。また研修実施には最少催行人員(10名)の規定が適用される。

教員連絡先

sakai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
エアライン実務論		13447	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
斎藤 晃子	選択	1	①20年間国際線客室乗務員②10年間専門学校での就活指導		

授業の到達目標

エアライン就活を目指す学生にエアライン実務・ならびに現在のエアライン就活の状況を少し伝えた上で、現在の自分に足りないところに気づく機会とする。3年次から始まる就職活動に前向きに向かえることが目的である。基礎的マナー教育から始め、形ではなく「なぜそうするのか」を理解したうえで心の部分からマナーを考えられるようになること。またグループワークなども取り入れながら自己分析を深め、それをどう表現するのかというところまで進めていきたい。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）、A（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

クラスでは一人ずつ自己紹介をプレゼンテーションしてもらおう所から始める。その後、エアライン実務を伝え、仕事への向き合い方や「やりがい」についてを各自考える機会を作る。そして、学生自身が目指すべき姿を明確にする。その上で第一印象アップの方法（身だしなみ、メイクなども含めて）、笑顔の作り方、ボイストレーニング、面接時の入室方法・退室方法のロールプレイング、グループワークでの自己分析など講義と実践両方行う。講座の最後の方で再度1人ずつプレゼンテーションの機会を設け、講座初日の自分の姿とのbefore・afterを比べる。2つを比較して自身の成長と自己課題を最終の論文にまとめることで講座を終了とする。

授業計画

- オリエンテーション(0.5コマ) 今後の講座の進め方について説明 講師自己紹介 学生自己紹介作成
- 第一印象の重要性① 自己紹介発表(ビデオ撮影) ペアワークで互いの印象をフィードバック エアライン業界の仕事研究ビデオで客観的に自分の姿を見ることにより、自身の現在の印象を知る。
- エアライン就活の現実を知る 各社の募集要項を再確認 採用試験の中身、合格者データ、傾向を知り自分の目標を明確にする。
- 第一印象の重要性② エアライン就活の身だしなみ研究 立ち居振る舞い練習 笑顔練習 美しいお辞儀実践 声出し練習(ボイストレーニング)

- 面接時入室・退室のマナー 入室・退室ロールプレイングとフィードバック
- 自己分析① グループワークを通して各自 自身の「金の糸(人生の中で大切にしたい考え方)」を探る
- 自己分析② 前回授業で発見した「金の糸」をもとに自己紹介を再度作成する。授業後半では模擬面接形式で入室～自己紹介～退室までの流れを実践する(ビデオ撮影)
- 総まとめ 授業前半で7回目に撮影したビデオを見る。後半ではこのプログラムを受ける前と受けた後の自分を比較しレポートを作成する。

授業の方法

この授業では講義とロールプレイング・実践を行う。またグループワークも取り入れる。

準備学修

WEBを参照すること。

課題・評価方法、その他

授業への参加姿勢が大きな評価ポイント。ロールプレイングやグループワーク、模擬面接では講師からフィードバックを行う。講座8回目に、講義前と講義を受けた後の自身の変化についてレポートを提出することを課題とする。平常点70%、レポート30%

欠席について

すべて出席しての講座修了なので、出席率が評価の大きな要素となる。

テキスト

プリント使用

基幹科目〈観光〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ツーリズム実務特論		13450	II	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
酒井 新一郎	選択	1	旅行会社勤務		

授業の到達目標

観光業界は大きな転換期を迎えており、新しいビジネスモデルが日々創出されている。現在、観光業はコロナウイルスの影響を受け、新たな事業収益を創造している。また2025年には大阪万博やIR事業の開設などを控えて、観光産業は大きなビジネスチャンスが到来している。各分野の第一線で活躍しているビジネスパーソンの講師から事業現場の話聞き、課題を発見し、解決策を見出すことを目標とする。このクラスはKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際）を養う。

授業の概要

本講義は、観光分野のプロフェッショナルの外部講師による講演を中心に、各分野で活躍する講師には旅行、ホテル、航空会社、観光局（DMO）などから招き、現場の最前線での仕事内容や課題などについて学ぶ。各講義前には登壇する講師の業界について調査し、講義後「気づきや学び」をレポートとして提出する。

授業計画

- オリエンテーション
- 講義①
- 講義②
- 講義③
- 講義④
- 講義⑤
- 講義⑥
- まとめと試験

授業の方法

外部講師による講義を中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題はレポートの提出を求める。

評価は平常点70%・定期試験30%

欠席について

学則の通り。

テキスト

随時プリントを配布する。

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

外部講師による講義の為、講義中の態度・服装には留意すること。

教員連絡先

sakai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
インターンシップ (国内)			13969	Ⅲ	春	30名
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	選択	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

将来、観光関連企業（旅行会社・ホテル・観光局など）及その他の企業に従事することを考えている者が就業体験により、自己の適正を知り、働くことの本質を学ぶ。インターンシップ参加に際してのエントリーシート作成、業界研究や企業コンプライアンスについて理解することを目標とする。このクラスはKAISEIパーソナリティのS（奉仕）とA（自立）を養う。

授業の概要

インターンシップは、事前研修と就業体験（インターンシップ）及び体験発表からなる。事前研修では業界研究や企業コンプライアンスなどについての講義を行い、グループワークでその理解を深めていく。またインターンシップ参加へのエントリーシート作成を行う。就業体験は夏休みに実施され、インターンシップ期間は受け入れ先により5日～4週間となる。尚、体験発表は10月上旬（秋学期・土曜日）に実施する。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 インターンシップとは
- 3 企業コンプライアンスについて
- 4 業界研究①
- 5 業界研究②
- 6 エントリーシート作成①(自己PR)
- 7 エントリーシート作成②(志望動機など)
- 8 インターンシップ受け入れ企業研究
- 9 インターンシップの目標設定
- 10 就業体験①
- 11 就業体験②
- 12 就業体験③
- 13 就業体験④
- 14 就業体験⑤
- 15 就業体験発表

授業の方法

グループワークを中心とした講義と就業体験及びプレゼンテーションを中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題は就業体験レポートとプレゼンテーション
評価は平常点30%、就業体験50%、プレゼンテーション20%
就業体験は5日間で35時間とする。

欠席について

事前研修の欠席が多い場合は、インターンシップ参加を取り消す場合がある。
就業体験欠席者は単位認定されない。

テキスト

随時プリントを配布する。

参考図書

講義内で紹介する。

留意事項

インターンシップ受入先は、主に観光・ホスピタリティ産業が対象である。それ以外にキャリアセンター扱いの企業も認める。
学生自身が就業体験先を選定した場合は事前審査を経て認める。
(最低5日間の就業体験が必要)
大学がインターンシップ先を提供できない場合がある。
履修者が30名を超えた場合は抽選とするので、第1回目オリエンテーションは必ず参加すること。

教員連絡先

sakai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ホスピタリティ・マネジメント			13831	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
白井 昭彦	選択	2	航空会社			

授業の到達目標

ホスピタリティ産業におけるマーケティングやカスタマージャーニーを学修し理解する。また、企業の戦略や組織と従業員満足の関係性を理解する。
このクラスはKAISEIパーソナリティのK（思いやり）、I（知性）とS（奉仕）を養う。

授業の概要

ホスピタリティ産業におけるマーケティングや他産業との違いについて、具体的な企業の実例に基づき学習する。

授業計画

- 1 ホスピタリティとは？
- 2 ホスピタリティⅠ
- 3 ホスピタリティⅡ
- 4 DisneyⅠ
- 5 DisneyⅡ
- 6 Disney & Universal Studio
- 7 空港
- 8 航空会社
- 9 マーケティングⅠ
- 10 マーケティングⅡ
- 11 マーケティングⅢ
- 12 カスタマージャーニーⅠ
- 13 カスタマージャーニーⅡ
- 14 サービスとホスピタリティ
- 15 まとめ・定期試験

授業の方法

パワーポイントを使用した講義形式が中心となるが、授業中に与えられた課題についてのレポートやグループでのディスカッションも取り入れる。

準備学修

日ごろからサービスやホスピタリティに関心を持つ

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

大学の規定通り

テキスト

Classroomでデータを配布する。

参考図書

『ホスピタリティ・マネジメント』同文館 徳江純一郎
『ホスピタリティマネジメント』白桃書房 吉原敬典

教員連絡先

shirai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
オフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。